

堀川ピッツア「にんじんクッキー」

「菊陽町おみやげグランプリ2025」でグランプリを獲得！

11月8日、町の魅力を発信することを目的に「菊陽町おみやげグランプリ2025」が開催されました。エントリーされた10品の中から、堀川ピッツアの福島啓介さんが出品した「にんじんクッキー」が見事グランプリに輝きました。

12月11日には、町長から表彰状が授与され、福島さんは「菊陽町特産の人参を使った商品を作りたいと思い、この商品を開発した。今後も菊陽町を盛り上げるために、さらに頑張っていきたい」と意気込みを語りました。



左から吉本町長、福島さん

優しい光が広がる

クリスマスマーケットが開催されました

12月12日～21日の10日間、ひかりのもり公園でクリスマスマーケットが開催されました。これまで熊本駅や花畠広場で開催され、今回初の郊外開催となりました。

会場は、県産の木材や竹を使ったツリーやイルミネーションに包まれ、「ヒュッテ」という木造屋台が並ぶ幻想的な雰囲気が広がりました。期間中には町内外から約6万人が来場し、飲食や音楽ステージを楽しみ、新しい冬のにぎわいがつくれました。



光に包まれたクリスマスマーケット会場

ニュースポーツを楽しむ

ニュースポーツ体験会を開催しました

12月13日、町総合体育館でスポーツ推進委員協議会主催によるニュースポーツ体験会が開催されました。当日は7～80歳の計25人が参加。ニュースポーツはシャッフルボード、カローリング、囲碁ボール、五目お手玉、モルック、スナッグゴルフ、スラックラインの7種目。子どもから大人まで一緒にニュースポーツを楽しむことができ、参加者からは「区のイベントで取り入れてみたい」という声が聞かれました。



シャッフルボードを楽しむ子どもたち

町PR大使の黒木選手が訪問

ロアッソ熊本が今シーズンの結果を報告しました

12月17日、町と「スポーツの力」で「地域の活力」を創造する連携協定を締結している「ロアッソ熊本」の藤本靖博代表取締役、町PR大使であり、ロアッソ熊本背番号2番の黒木晃平選手が2025シーズンの結果報告のため、来庁しました。

藤本代表取締役は、「明治安田J2・J3百年構想リーグでしっかりチームを立て直し、1年でJ2へ復帰します」と来シーズンの意気込みを強く語られました。



うまcarrotを手に、笑顔で記念写真

スポーツ振興に貢献

令和7年度生涯スポーツ功労者表彰を受賞しました

12月23日、文部科学大臣表彰である令和7年度生涯スポーツ功労者表彰を受賞された庭田孝男さん(杉並台)が、町を表敬訪問しました。

庭田さんは、平成15年～現在にかけて、熊本県スポーツ少年団指導者協議会副会長を務めておられるほか、武蔵ヶ丘中学校武道場にて少林寺拳法の指導者としても活動されています。



左から、庭田さん、吉本町長

町のスポーツ振興に尽力

町からは団体および個人が3つの部門で受賞しました

11月30日、令和7年度熊本県生涯スポーツ功労者および生涯スポーツ優良団体表彰式と、第63回熊本県スポーツ推進委員研修会宇城市大会が開催されました。

文部科学大臣生涯スポーツ優良団体部門では、NPO法人クラブきくようが全国表彰を受賞。NPO法人クラブきくようは、幅広い年代・ニーズに合わせたスポーツ活動、町施設の管理運営、指導者の調整や派遣、小学校部活動地域移行などに積極的に取り組んでいます。

熊本県生涯スポーツ功労者部門では、菊池郡市陸上競技協会の理事長を務める合志貞臣さん(曲手)が受賞。合志さんは、町の陸上競技協会長であるほか、菊陽中学校で陸上競技部活動指導員としても約40年間活動し、優秀な選手の輩出や大会運営への協力、コーチとしての指導など現場を支える活動にも力を注いでいます。

熊本県スポーツ推進委員功労者部門では、町スポーツ推進委員の小崎法央さん(沖野)が受賞。小崎さんは、平成30年からスポーツ推進委員として、各種大会の運営や審判、ニュースポーツの普及活動、実技指導などに取り組んでいます。



功労者表彰・優良団体表彰受賞者による
記念撮影



表彰を受ける合志さん(右)



町スポーツ推進委員と記念撮影する
小崎さん(右から2番目)

ロシア発祥の総合格闘技「サンボ」で日本一 全国大会での優勝を報告しました

12月23日、2025ビクトル古賀杯 第9回全国高等学校サンボ選手権大会で優勝した石川杏南さん(新山)が、来庁しました。

石川さんは、女子57kg超級に出場。高校1年生ながら、得意な関節技を駆使し、見事優勝しました。

日本にサンボを広めたビクトル古賀さんを師匠とする顧問の指導の下、毎日早朝からの練習に励み、さらなる高みを目指しています。



左から、石川さん、吉本町長

「笑い」を通じて元気をお届け

人生100年！笑いでつながるプロジェクト

12月18日、「辛川サロン」にて、菊陽町合併70周年を記念したお笑い交流イベントを開催しました。このイベントは、町と(株)熊本県民テレビが締結した「地域活性化に関する包括連携協定」に基づく連携事業として実施したもので、町長からの挨拶のあとに、お笑い芸人の安井政史さんが登場すると、会場は大きな拍手に包まれました。軽快なネタ披露に加え、参加者との交流も行われ、終始笑顔の絶えないひとときとなりました。



お笑い芸人の安井政史さんと交流する参加者



集まった皆さんで記念撮影

災害対応力の強化へ

災害レジリエンス強化事業に係る連携協定を締結

12月25日、町と一般社団法人てとてとココロは、医療・介護・福祉分野における災害対応力を強化するための連携協定を締結しました。

自治体と民間団体が協力して包括的な災害支援体制構築を推進する取り組みは九州初。この協定により、事業者同士の連携を前提とした事業継続計画(BCP)の策定や医療福祉支援チームの育成、災害時における在宅避難者への支援などに取り組みます。



協定書を手にする吉本町長(左)と
清藤千景代表理事(右)

小学生が町の未来について考える

小学6年生による町の未来発表会

小学6年生が吉本町長と教育長へ政策提言を行う町の未来発表会が開催されました。障がいのある人でも住みやすい町づくりについて提案した菊陽中部小学校の濱田結乃さんは「いろいろなテーマの発表を聞いて、自分たちになかった視点からの提案があって面白いと思いました」と話してくれました。今回も柔軟な発想が光り、子どもたちの思いが町の未来を創る頼もしい姿が見られました。



学校運営協議会委員の前で発表する児童

地域の輪で門松作り

小・中学校にかざる門松用の竹を伐採しました

12月13日、前田孝一さん(下津久礼)の竹林にて、小・中学校でお正月に門松を飾るため、竹取りを実施しました。地域住民と小・中学校の先生、PTAの保護者が集まり、竹や松、南天などを収集しました。大きな竹を伐採する時にみんなで声をかけあうなど、立場や世代の垣根を越えて協力して作業する姿がありました。



協力して竹を伐採する



竹を協力して運ぶ



良い竹を選ぶ様子



門松の「そぎ」を作る

最新AR(拡張現実)スポーツと謎解きに挑戦！笑顔弾ける子ども会大会

菊陽町子ども会大会～HADO体験＆ナゾトキゲーム～

12月14日、町総合体育館で、「町子ども会大会～HADO体験＆ナゾトキゲーム～」が開催され、町内の小学生約80人が参加しました。参加者はAグループとBグループに分かれ、前半・後半でローテーションしながら、HADO体験とナゾトキゲームの両方に挑戦しました。HADOではAR(拡張現実)技術を使ったエナジーボールの撃ち合いに白熱し、ナゾトキではチームで知恵を出し合って会場内のヒントを探索。体を動かす最新スポーツと、頭を使う謎解きの両方を全員が楽しみ、会場は終始子どもたちの元気な声で賑わっていました。

当日は町ジュニアリーダーも大会運営に携わり、HADO体験とナゾトキゲームの運営補助や司会進行を担当。会場入口には彼らが手作りしたカラフルな「バルーンアーチ」も設置され、会場を華やかに彩りました。フィナーレでは、飾っていたバルーンを子どもたち一人ひとりにプレゼントし、ジュニアリーダーのおもてなしに参加者は最後まで笑顔いっぱいの様子でした。



HADO体験を楽しむ子どもたち



仲間と謎解きに挑戦する参加者



謎解きの進行をするジュニアリーダー



ジュニアリーダーが作ったバルーンアーチ

みんなの広場

投稿募集中



皆さんが町民の皆さんに伝えたい情報や、活躍を掲載します。掲載月の2カ月前の月の15日までにご連絡ください。

必ず掲載されるわけではありません。

問 総合政策課 企画政策係

☎ 096(232)2112

✉ kouhou@town.kikuyo.lg.jp

菊陽町社会福祉協議会への寄付と学校支援金

菊陽町地域女性の会(酒井恵会長)では、11月8日に行われたすぎなみフェスタでの売り上げ金を菊陽町社会福祉協議会へ寄付しました。また、11月19日には学校支援金として菊陽中部小学校に差し上げました。

地域女性の会では、長年、町内の小中学校8校に学校支援金としてすぎなみフェスタの売上金の一部を差し上げてきました。

一昨年は菊陽中、
昨年は武蔵ヶ丘中、
そして今年は菊陽中部小学校へお渡しし、梶原校長は「子どもたちのために使わせて頂きます」と話しました。



左から酒井会長、梶原校長

消費生活通信 vol. 9

問 町消費生活相談室(総合政策課内) ☎ 096(232)2112

相談受付時間 (月~木) 午前10時~午後4時

海外のオンラインカジノなら利用しても大丈夫?

相談事例①

SNSでオンラインカジノを知り、無料版で遊んでみたら勝ったので、有料版を利用してみることにした。勝ったり負けたりを繰り返しながら、だんだんと使うお金が膨らんでいき、とうとう借金をすることになってしまった。借金返済のお金がなくて困っている。

(50歳代 男性)

相談事例②

大学の先輩から「面白いゲームがあるからやってみないか」とオンラインカジノに誘われた。ゲーム感覚で楽しく、数十万円勝ったことをきっかけにのめり込み、クレジットカードでキャッシングしてしまった。返済が苦しい。借金してはいけない、オンラインカジノをやめなければと思っているが、どうしてもオンラインカジノをやめることができない。(40歳代 男性)

消費者へのアドバイス

オンラインカジノとは、インターネット上でカード

ゲーム、スロット、ルーレットなどのカジノゲームが楽しめるサイトのことです。海外で合法的に運営されているオンラインカジノでも、日本国内から接続して賭博をすることは犯罪です。絶対に利用しないようにしましょう。

一方で、公営ギャンブルの競輪・競馬・競艇・オートレースや、totoやBIGなどのスポーツ振興くじは日本の法律に基づき運営されているため合法ですが、それ以外のスポーツを対象とした賭博は違法ですので、利用しないようにしましょう。

2025年9月からは、オンラインカジノサイトの広告や宣伝も禁止されました。

また、ギャンブル依存症とは、ギャンブルなどにのめり込み、コントロールができなくなる疾患です。自分の意志や理性だけでは回復することは困難です。多重債務などの経済的問題や、健康問題、家庭問題、犯罪などの社会的問題が生じる場合もあるので、早く治療につなげることも大切です。

困ったときは、消費生活相談窓口へご相談ください。